

海外安全対策情報 平成29年度第3四半期

1 社会・治安情勢

- (1) 不安定な電力事情や燃料の高騰で市民生活は困窮の度を高め、9月中旬には、ボケ県で電力及び水供給不足に伴う抗議活動で死傷者が発生しました。その後、暴動は落ち着きを取り戻しつつありましたが、11月9日、ボケ県サンガレディ市で電気供給不足に伴う抗議活動により一部の暴徒化した市民が警察、憲兵隊車両に放火するなど、依然として同地区には注意が必要です。
- (2) コナクリ市では教員組合のストライキの影響により学生のデモが拡大したため、治安当局が出動し、威嚇射撃によって学生が死亡しました。現在、教員組合と政府の話し合いが行われ、落ち着きを取り戻しましたが、今後の政府の対応によっては抗議活動が過激になる可能性があります、注意が必要です。
- (3) 10月1日から12月16日の間、麻しんの感染疑いが、347例発生し、検査などで112例が確定例として確認されています。死亡例は4例です。ギニア保健省は今年3月、同国での麻しんの流行宣言を発出しています。髄膜炎の患者数についても例年に比べ増加していますので、注意が必要です。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

10月～12月の間、日本人が被害に遭った事件は確認されておりません。一般犯罪発生状況は、従前と比較し改善していると言われてはいますが、政府車両を標的にした強盗や、裕福な家庭を狙った強盗事案がたびたび発生しています。

また、国境、県境周辺や幹線道路沿いでは、長距離タクシーや乗用車を狙った武装強盗による被害も治安当局により確認されています。

今後も、ご家族も含めて犯罪に巻き込まれないよう、行動には一層の注意を払うなど、自ら安全を守る心構えが必要です。防犯の心構えとして当館ホームページに掲載の【安全の手引き】をご覧ください、未然の防止に努めてください。

(1) 一般犯罪・凶悪犯罪事案

○コナクリ市

11月16日～20日、休校中の学校の学生が、教員によるストライキの影響により、授業を継続的に受講できないとして、投石や道路に障害物を置いて道路封鎖を行い、抗議活動を行いました。この間、教員組合の一部を支持していた関係者3名が逮捕、デモを鎮圧しようとした治安当局の威嚇射撃によって1名が死亡しました。

○ボケ県

11月9日、サンガレディ市では電気供給不足に抗議する市民が暴徒化し、警察、憲兵隊車両を放火するなどの暴動に発展しました。

○マンディアナ県

11月25～26日、ギニア・マリ国境地域のカンテドゥバランドゥグ（マリ側はニアウレニ）において、金鉱業に従事する両国住民、ギニア人狩猟者及び憲兵隊の間で衝突が発生し、17名が死亡（ギニア側5名、マリ側は憲兵隊を含む12名）しました。

○ファラナ県

11月10日夜、乗客を乗せたタクシーがファラナ県内で武装強盗に襲撃され、金品を強奪され、銃で乗客1名が死亡、負傷者が1名発生しました。

○キンディア県

10月9日夜、乗客を乗せたタクシーがフラヤを通過中、武装強盗に襲撃され、金品を強奪されました。

(2) 邦人被害事案

邦人被害事案は確認されていません。

(3) 在留外国人（邦人以外）の被害事案

ア 11月21日、ハイチ人が車で走行中、学生のデモに巻き込まれ、投石によりフロントガラスや車体を破損する被害に遭いました。（コナクリ市ラトマ区バンベート地区）

イ 12月6日、コートジボワール人の学生が学生のデモを鎮圧しようとした、治安当局の威嚇射撃によって、死亡しました。（コナクリ市ラトマ区ハムダライ地区）

3 テロ・爆弾事件発生状況

ギニア国内ではテロ・爆弾事件は発生していませんが、治安当局は昨今の西アフリカ諸国におけるテロ発生を受けて、主要なホテルや公共施設に治安部隊を配置し警戒に当たっています。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

12月5日、コナクリ市内でギニア人ビジネスマンが誘拐され、多額の身代金を要求される事件が発生し、27日現在、犯人は逮捕されていません。

在留邦人、在留外国人の被害事案は確認されていません。

5 対日感情

ギニア国民の対日感情は概ね良好です。

6 日本企業の安全に関わる諸問題

ギニア国民の対日感情は概ね良好であることから、日本企業であることを理由に犯罪の標的になる可能性は低いと思われれます。

以上